

<3 教育・子育てのまちづくり>

○評価の集計

A+	A	B	C	総数
0	5	2	0	7

(参考)評価の定義

評価	定義
A+	取組の狙いを上回る顕著な成果が得られているもの
A	計画に基づき、着実に進捗しているもの
B	目標達成に向けた途上にあり、継続的な取組やフォローを要するもの
C	進捗が大きく遅れており、改善や見直しが必要なもの

○数値目標

指標		単位	現状値(R5)	実績値					目標値(R11)
				R7	R8	R9	R10	R11	
①	児童生徒が積極的に地域の行事等に参加する割合の向上	%	小学生64.9% 中学生39.7%	小学生65.9% 中学生56.2%					小学生80.0% 中学生80.0%
②	地域や社会をより良くしようとする児童生徒の割合向上	%	小学生66.5% 中学生80.0%	小学生79.4% 中学生69.3%					小学生80.0% 中学生90.0%

○評価の詳細

まちづくりの基本方向	計画目標(主な取組)		評価					参考指標				評価理由 (主要事業等から抜粋)	今後の取組方針 (主要事業等から抜粋)
			R7	R8	R9	R10	R11	指標	単位	本年度 数値	目標値 (時期)		
3-1 在宅育児支援の充実	①	切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健施策の充実	B					①乳幼児健診受診率 (6か月児健診) ②乳幼児健診受診率 (1歳6か月児健診) ③乳幼児健診受診率 (3歳児健診)	①% ②% ③%	①98.5 ②99.1 ③98.9	100(R11) 100(R11) 100(R11)	【乳幼児健康診査の充実】 ・健診未受診者は年間数名いる状況ではあるが、各種健診受診率は98%前後を維持しており、各種健康診査受診者に対して、保護者の負担感等を確認し、育児相談や子育てサービスの紹介を行った。 ・健診未受診者に対しては、必要に応じて関係機関とも連携しながら、状況把握に努めている。 【産後ケア事業の充実】 ・R7年度より、妊娠32週以降の電子申請を可能とし、産後ケア事業を利用しやすい環境を整えた。 ・R7年8月より産後ケア事業訪問型(アウトリーチ型)を開始し、外出が困難な方も支援が受けられる体制を整え、支援の充実に努めた。 【在宅育児支援の充実】 ・子育てひろばの土曜開所を開始し、平日利用できない家庭も利用できる体制を整えた。	【乳幼児健康診査の充実】 ・引き続き、集団健診において、多職種による相談や助言により保護者の育児負担感や不安感の軽減及び、未受診者へのアプローチに努めていく。 【産後ケア事業の充実】 ・引き続き、産後ケア事業の充実を図り、育児不安の軽減に努めていく。 【在宅育児支援の充実】 ・R8年度はよどえでも土曜開所を開始し、更なる充実を図った。今後も土曜開所のセンターの拡大等、市民が利用しやすいよう体制の充実を図る。
	②	在宅育児支援の充実											
3-2 子育て支援の充実	①	放課後等のこどもの居場所の拡充	A									【保育士の確保・保育の質の向上】 ・ハローワーク米子や保育所・保育士支援センターと協力し、就職活動及び魅力発信に係るイベントを3回開催した。イベントに参加し、実際に採用につながった事業者もあり、保育現場で働く人材確保に貢献した。 ・広報を用いた魅力発信及び保育士の就労環境改善のため国・県と連携した、処遇改善、ICT化、配置基準への補助等を行った。 【公立保育所の統合・建替えによる保育環境の充実】 ・よなごっこ未来計画に基づき、公立保育所の統合建て替え計画を進めた(西保育園・ねむの木保育園:予定どおり新園舎建設工事に着手、崎津保育園・小鳩保育園:義務教育学校整備と併せて造成工事及び建築実施設計を前倒し実施、こたか保育園・あがた保育園:地元意見の聴取を行いながら基本構想の策定に向けた検討を進捗、富益保育園・彦名保育園:保育動向等の情報収集)。	【保育士の確保・保育の質の向上】 ・引き続きイベントの開催や魅力発信に努めることで、保育現場で働く人材確保に努めていくとともに、国や県と連携した補助事業により、保育現場の負担を軽減し、保育士等が働きやすい職場環境を整備することで、保育士不足の解消につなげていく。 【公立保育所の統合・建替えによる保育環境の充実】 ・引き続き、公立保育所の統合建て替え計画を進め、保育環境及び地域子育て支援の充実を図っていく。
	②	インクルーシブ保育の推進と保育士の確保・保育の質の向上											
	③	保育の供給量の適正確保及び公立保育所の統合・建替えによる保育環境及び子育て支援の充実											
3-3 こどもの特性や発達に合わせた適切で切れ目ない支援	①	こどもの特性の早期把握及び個々の特性に応じた支援	B					5歳児よなごっこ健診 1次健診受診率	%	96.4	100(R11)	【こどもの特性の早期把握及び個々の特性に応じた支援】 ・1次健診を通園施設などと連携しながら実施した。1次健診の取組によるこどもの把握率は例年以上となった(R6:91.8%)。 ・母子保健と児童福祉の両方の視点で相談に応じ、相談内容に適した専門職等に繋げるなど、関係機関とも連携し、妊娠期から学齢期まで切れ目なく支援を行った。(相談586件、研修会1回開催)	【こどもの特性の早期把握及び個々の特性に応じた支援】 ・5歳児健診の二段階方式における国マニュアルが改定され、米子市も対応していく。二段階方式における、こどもの特性把握の方法を医療機関等と連携しながら、先進的に進めていくことを検討する。 ・引き続き、こども総合相談窓口の周知を進めるとともに、関係機関との連携深化を図り、相談を充実させていく。
	②	関係機関の連携による発達段階に合わせた切れ目ない支援											
	③	幼稚園、保育所等と小学校との円滑な接続の推進											

まちづくりの基本方向	計画目標(主な取組)		評価					参考指標				評価理由 (主要事業等から抜粋)	今後の取組方針 (主要事業等から抜粋)
			R7	R8	R9	R10	R11	指標	単位	本年度 数値	目標値 (時期)		
3-4 学校教育の充実	①	豊かな人間性と創造力をもったこ どもの育成	A									【多様な学びの場の充実と不登校対策の推進】 ・各中学校区にスクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒 や保護者への支援を充実させることで、関係機関と連携した効 果的な支援体制の構築を図った。 ・教育支援センター(ぶらっとホーム)や校内サポート教室の体 制強化、拡充により、個々の状況やニーズに応じた多様な学び への接続を進めることができた。 【英語に親しむ態度やコミュニケーション能力の育成】 ・「English Park for students(ALT(外国語指導助手)や 地域の英語人材等との体験型英語活動)」を市内小中学校7校 で実施した。またその際に教員が、小中連携の情報交換会等 を行った。	【多様な学びの場の充実と不登校対策の推進】 ・校内サポート教室を市内全小中学校に設置し、全市的な支援 体制のさらなる充実と学校組織の整備を行うとともに、子ども の居場所サポート会議を活用し、学校組織のさらなる充実や支 援員の連携への働きかけを行う。 【英語に親しむ態度やコミュニケーション能力の育成】 ・新たに「ミニ English Park for students」を実施し、児童 生徒が外国語に触れる機会と小中連携の場の充実を図る。 ・中学生海外派遣事業を実施し、諸外国の文化を尊重すると ともに、ふるさと米子を大切にする態度の育成を図る。
	②	確かな学力を身につけたこども の育成											
	③	健康でたくましく、命を大切にす るこどもの育成											
	④	コミュニティ・スクールを基盤とし た「地域とともにある学校づくり」 の推進											
3-5 学校施設の整備・充実	①	学校施設の整備・充実	A									【学校施設の整備・充実】 ・加茂小学校において、校舎の長寿命化改修(外壁、屋上防水、 内装の改修)実施した。 ・トイレ洋式化・乾式化については、小学校2校、中学校1校の工 事を完了させ、施設の機能向上を行った。また照明のLED化に ついては、小学校10校、中学校4校及び箕蚊屋中学校の施設 照明をLED化し、施設の機能向上を行った。 ・小学校2校に芝生を新設した。また、新設校を含む小学校10 校において、芝生の維持管理費を増額し、芝生の生育状況を改 善した。 【義務教育学校の整備】 ・用地買収が完了し、また、造成工事及び建築実施設計業務を 前倒して実施する等、事業を順調に進めることができた。 ・開校準備委員会にて校名候補案の公募方法等を決定するとと もに、教育環境部会においては通学路の決定に向けた現地調 査の実施を通して、仮部会案を決定した。教育課程について他 自治体の事例を参考に検討を進めた。 ・義務教育学校と一体的に整備を進める崎津保育園・小嶋保育園 の統合園について、義務教育学校と併せて、造成工事及び建 築実施設計を前倒して実施する等、事業を順調に進めることが できた。	【学校施設の整備・充実】 ・今後も引き続き、各学校の築年数や老朽化の状況を踏まえ、 改修時期や具体的な施工内容を検討していく。 ・トイレ洋式化・乾式化については、未整備の学校から優先的に 進めていき、最終的には、すべての学校トイレの整備を行う。ま た照明のLED化については、R8年度に小学校10校、中学校5 校のLED化を実施する。 ・芝生について、こまめな現地確認や、維持管理業者との密な 連携により、昨年度よりも維持管理を徹底することで、さらな る生育状況の改善に努める。 【義務教育学校の整備】 ・造成工事及び建築実施設計業務ともに関係課及び事業者と 引き続き連携して進捗を図り、その後、校舎等の建築工事へと 進めていく。 ・校名選定及び通学に関しても計画どおり進めるとともに、閉 校・開校事業及び教育課程について関係課等と連携し、検討を 進める。 ・崎津保育園・小嶋保育園の統合園については、義務教育学校 と併せて事業、造成工事及び建築実施設計ともに関係課及び 事業者と引き続き連携して進捗を図り、その後、園舎等の建設 工事へと進んでいく。
	②	美保中学校区義務教育学校の整 備											
3-6 児童・青少年の健全育成	①	体験・交流活動の充実	A					①子ども☆みらい塾参 加者・保護者アンケート により”学習意欲向 上”したと回答した割 合	①％ ②％	①(親)91・ (子)72 ②100	①(親)95・ (子)80 (R11) ②100％	【放課後等におけるこどもの居場所づくり】 ・公民館等に子どもが日常的に立ち寄れる風土の醸成を図る 「公民館等を活用した子どもの居場所づくり事業」をモデル的 に実施した。 【貧困世帯等への学習支援】 ・子ども☆みらい塾を開催し、大学生や一般等のボランティアに よる少人数制の対面方式の学習支援及び進学相談等を行っ た。 ・親子面談等を行うとともに、必要に応じて学校等の関係機関 との情報共有・情報交換を行い、子どもの状況把握、適切な学 習支援、生活支援につなげた。	【放課後等におけるこどもの居場所づくり】 ・今後は、民間団体との連携強化や既存施設の有効活用、地域 人材の育成をさらに重視し、体験機会の創出、多世代交流や学 びの共有を促進する居場所づくりを構築・展開していく。 【貧困世帯等への学習支援】 ・引き続き、子どもの状況に応じた適切な学習支援・進学相談 等に取り組む。 ・事業の継続的实施に向けて、大学生等のボランティア人材の 確保に努める。
	②	児童・青少年の安心・安全な環境 の確保と健全育成											
	③	すべてのこどもたちが健やかに育 成されるための環境整備											
3-7 ふるさと教育の推進	①	ふるさと米子に学び、ふるさとへ の愛着や誇りをもつ人材の育成	A					①児童生徒が積極的 に地域の行事等に参 加する割合の向上 ②地域や社会をより良 くしようとする児童 生徒の割合向上	①％ ②％	①集計中 ②集計中	①小学生 80.0％ 中学生 80.0％ ②小学生 80.0％ 中学生 90.0％	【ふるさと教育の推進】 ・米子南高校と「ふるさと教育に係る連携協定」を締結したほ か、米子西高校の探究学習成果(ネギトレダンスver2制作)の 市事業への活用など、各校の特色に応じた全庁的な支援・連携 を積極的に推進した。 ・県西部12高校等の生徒が参加した「高校生フォーラムIN米 子」を開催し、探究学習を基にしたまちづくりの議論を行った。 ・新米子市発足20周年事業の一環として、市内全中学校(私立 含む)が一同に会す合同成果発表会を開催した。	【ふるさと教育の推進】 ・各学校のニーズや探究テーマに合わせて、市役所各課が専門 性を活かして伴走するきめ細かな支援を継続し、ふるさと教育 の推進を図る。 ・学生の柔軟なアイデアを、実際の市政課題の解決や魅力発信 へと反映させていく。